

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1 <span>★★</span>	2 <span>★★</span>	3	4 <span>★</span>
			← 夜、満月を <b>満月</b> 見よう →			
5 せいめい 清明	6	7	8 日の出 5:28 日の入 18:19	9 <span>★★</span>	10 <span>★★</span>	11
			← 朝、西の空の <b>下弦</b> 月を見よう →			
12 <span>★★</span>	13 <span>★</span>	14	15 日の出 5:18 日の入 18:25	16 <span>★★</span>	17 春の土用の入り <b>新月</b>	18 夕方、西の空の月を見よう
19 <span>★★</span>	20 <span>★★</span> こくう 穀雨	21 <span>★</span>	22 <span>★★</span>	23 <span>こと座流星群</span>	24	25 <span>★</span>
← 夕方、西の空の <b>三日月</b> 月を見よう →			← 夕方、南の空の <b>上弦</b> 月を見よう →			
26 <span>★</span>	27 <span>★★</span>	28 <span>★★</span>	29 <span>★</span> 昭和の日 日の出 5:00 日の入 18:37	30	1	2
						※過去 10 年間の富山市の午後9時の晴天率 ★★: 60%以上    ★: 40~50%

## ★ 夜空をながめてみよう ★

### ■春の星座を見つけよう

太陽が沈んで暗くなった頃の空を見上げると、西の空を中心に冬の星座の星々がまだ残っています。その代表は、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオンそしてオリオン座のペテルギウスからなる冬の大三角です。この星座たちよりも少し低い所にとても明るく輝いている天体が金星です。空の高い所には、ふたご座の中にひとときわ明るく輝く木星が見えています。ほどなくして星空は春の星座たちでおおいつくされることになるでしょう。心地よい春の夜風の中で見上げる春の星座のながめはなんとも言えない美しさです。



4月10日午後7時30分の空 ステラシアターに一部加筆

## 今月のトピックス

### ■こと座流星群極大…4月23日(木)

夏の代表星座の一つ、こと座は4月の下旬近くになると夜半前の北東の空高く昇るようになります。そのこと座のベガの近くに輻射点を持つ「4月こと座流星群」が4月23日の午前5時頃ピークになると予想されています。月明かりの影響もなく好条件です。



4月23日午前1時の空 ステラシアターに一部加筆

### ■月とアンタレスの接近

4月になるとさそり座が南東の空に昇ってきます。そのさそり座1等星のアンタレスが4月7日の夜半過ぎに月齢18.6の月に寄り添って見えます。そのすぐとなりには球状星団M4が繭玉のようにぼんやり見えるはず。双眼鏡を使って眺めるのがおすすめです。

日	月	火	水	木	金	土
26 ※過去10年間の富山市の午後9時の晴天率 ★★: 60%以上 ★: 40~50%	27	28	29 昭和の日	30 日の出 4:59 日の入 18:38	1 ★	2 ★★ はちじゅうはちや 八十八夜 満月 夜、満月を見よう
3 ★★ 憲法記念日 夜、満月を見よう	4 ★★ みどりの日	5 ★ こどもの日 立夏	6 みずがめ座η流星群 日の出 4:51 日の入 18:44	7 ★★	8 ★	9 ★ 朝、西の空の月を見よう
10 朝、西の空の 下弦 月を見よう	11 ★	12 ★	13 ★	14 ★ 日の出 4:45 日の入 18:50	15 ★	16
17 ★ 新月	18	19 ★	20 ★ 三日月 夕方、西の空の 月を見よう	21 ★ しょうまん 小満 日の出 4:40 日の入 18:56	22 ★	23 ★★ 夕方、南の空の月を見よう 上弦
24 ★ 夕方、南の空の月を見よう	25 ★	26	27	28 ★ 日の出 4:36 日の入 19:01	29 ★	30 ★ 夜、満月を見よう
31 ★★ 満月 夜、満月を見よう	1	2	3	4	5	6

## ★ 夜空をながめてみよう ★

### ■ 月が金星と木星に接近

5月の日の入り後、西の空の高い位置には木星が、低い位置には宵の明星とも呼ばれる金星が見えます。19日には、三日月が金星に接近します。三日月は繊細な形のため、月よりも先に明るく輝く金星の方が目に留まるでしょう。20日には、前日の三日月よりも少しだけ太くなった月が木星に接近します。白く輝く木星と細い月が並び様子は見栄えのすることでしょう。



©国立天文台

## 今月のトピックス

### ■ みずがめ座<sup>エータ</sup>η流星群が極大・・・5月6日(水)

みずがめ座は、秋の宵の南の空で見頃になる星座ですが、5月初旬になると夜明け前の南東の空低く姿を見せるようになります。そのみずがめ座に輻射点のある「みずがめ座η流星群」が6日の午前6時頃極大を迎えます。今年は月明かりで条件はよくありません。



5月6日午前3時の空

ステラシアターに一部加筆

日	月	火	水	木	金	土
31	1 ☆	2 ☆	3 ☆☆	4 ☆	5 ☆	6 ぼうしゅ 芒種 日の出 4:33 日の入 19:07
7 ☆	8	9 ☆	10 ☆	11 にゅうばい 入梅	12	13 日の出 4:32 日の入 19:11
14	15	16	17 ☆☆	18 ☆☆	19 ☆	20 ☆ 日の出 4:32 日の入 19:13
21 げし 夏至	22	23	24 ☆	25	26 ☆	27 日の出 4:34 日の入 19:14
28	29	30	1	2	3	4 ※過去10年間の富山市の午後9時の晴天率 ☆☆: 60%以上 ☆: 40~50%

## 今月のトピックス1

### ■月と木星が接近

6月の日の入り後の西の空には、宵の明星の金星と太陽系最大の惑星である木星が輝いて見えます。どちらもとても明るく、街明かりにも負けずにキラリと輝きます。そんな二つの惑星が8日から10日にかけて西の空で大接近します。マイナス4等の金星とマイナス1.9等の木星が並び様子は目を引くことでしょう。

毎日2つの惑星を観察すると、金星と木星の見かけの距離が少しずつ近づき、そして離れていく様子が分かります。金星の方が地球に近い惑星であり、日ごとの位置の変化が大きいことを実感できるでしょう。



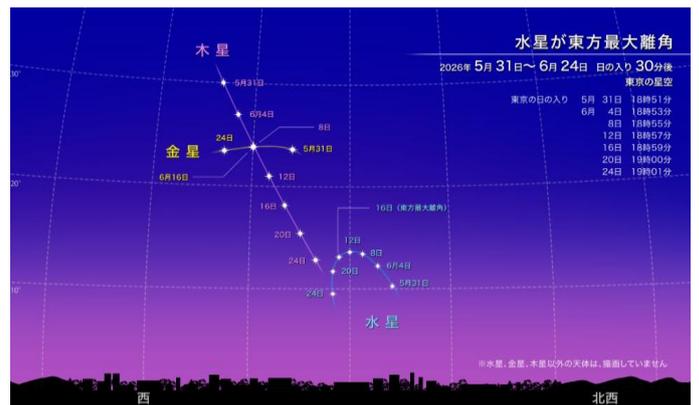
©国立天文台

## 今月のトピックス2

### ■水星が東方最大離角

水星は、太陽系の最も内側を公転している惑星です。そのため、水星は見かけの位置が太陽から大きく離れることがなく、見つけやすくなる時期は太陽からの見かけの位置が遠くなる「最大離角」前後に限られています。6月16日に水星は東方最大離角となり、この日の前後には日の入り直後の西の空の低い位置で水星が見つけやすくなります。

雲がなく、よく晴れた日は、観察しやすいですが、双眼鏡を使う際は太陽を見ないように、太陽が沈んでから観察を始めるようにしましょう。



©国立天文台

日	月	火	水	木	金	土
28 日の出 4:35 日の入 19:14	29	30	1	2 はんげしょう 半夏生	3	4
5 日の出 4:38 日の入 19:13	6	7 しょうしょ たなばた 小暑 七夕 朝、西の空の 下弦 月を見よう	8	9	10 **	11
12 日の出 4:42 日の入 19:11	13	14 新月	15	16 三日月	17 *	18 *
19 *	20 * 海の日 夏の土用の入り	21 *	22 **	23 たいしよ 大暑	24 *	25 *
26 *	27	28	29 *	30 * みずがめ座δ南流星群	31 *	1
日の出 4:52 日の入 19:03				満月 夜、満月 満月 月を見よう		

※過去10年間の富山市の午後9時の晴天率  
 \*\* : 60%以上    \* : 40~50%

## ★ 夜空をながめてみよう ★

### ■七夏の牽牛星と織女星を見つけよう

7月7日は、星祭りとして有名な七夕です。織姫と彦星が天の川をはさんで年に1度しか出会えなくされたという七夕伝説が有名です。夏の夜空をいろいろと座の織女星ベガとわし座の牽牛星アルタイルをぜひ見つけ出してください。2つの星の距離は約15光年（1秒間に約30万km進む光の速さで15年間移動した距離）もありますが、互いの明るさで相手を見つけているのかもしれませんがね。この2つの星とはくちょう座のデネブを加えてできるのは夏の大三角です。デネブは地球から約1400光年離れています。



7月7日午後8時の空

ステラシアターに一部加筆

## 今月のトピックス

### ■みずがめ座δ南流星群が極大…7月31(金)

7月後半は全国的に梅雨明けとなり、夏空の星座を見るにはよい季節となります。やぎ座流星群とみずがめ座δ流星群が極大を迎えます。みずがめ座流星群よりもやぎ座流星群の方が速度が遅いため、ゆっくり流れて見えるでしょう。みずがめ座付近には、いくつもの枝分かれした流星群の輻射点があります。7月31日には、みずがめ座δ南流星群極大となる予想ですが、満月が7月29日なのでピーク時の条件にはめぐまれません。輻射点がいくつもあり、8月下旬まで楽しめそうです。



7月31日午後11時の空

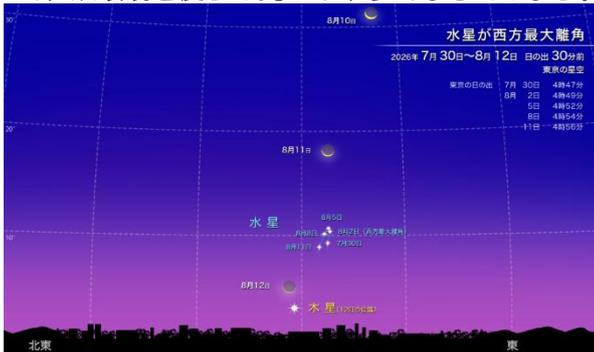
ステラシアターに一部加筆

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1 ★★
<small>※過去 10 年間の富山市の午後9時の晴天率 ★★：60%以上 ★：40~50%</small>						
2 ★★	3 ★	4 ★★	5 ★	6 ★	7 ★ りっしゅう 立秋	8 ★
		日の出 4:59 日の入 18:55	朝、西の空の 下弦		月を見よう	
9 ★	10	11 ★★ 山の日	12 ★	13 ★ ペルセウス座流星群 皆既日食 (日本では見られない) 新月	14 ★★	15
		日の出 5:05 日の入 18:48			夕方、西の空の月を見よう	
16	17	18 ★★	19	20 ★	21	22
夕方、西の空の 三日月		日の出 5:10 日の入 18:39	夕方、南の空の 上弦		月を見よう	
23 ★ しよしよ 処暑	24	25 ★	26 ★	27	28 ★ 旧七夕	29
		日の出 5:16 日の入 18:30	夜、満月を見よう		満月	
30	31	1	2	3	4	5

## ★ 夜空をながめてみよう ★

### ■ 明け方の空で水星を探してみよう

水星は太陽に最も近い惑星で、見るのが難しい天体です。8月2日前後は日の出前の東北東の低空で見つけやすくなります。水星よりも少し空の高い空には赤みを帯びた特徴的な惑星である火星が見えます。また、近くには、ふたご座や、オリオン座といった明るい星々も目印になるでしょう。ですが・・・明るくなりはじめた空の中では、星を探すのも難しくなります。太陽を直接見ないようにして、双眼鏡を使うと見つけやすくなるでしょう。



©国立天文台

## 今月のトピックス

### ■ ペルセウス座流星群が極大・・・8月13日(木)

流星群の中でも有名なペルセウス座流星群が、8月13日午前11時頃にピークとなると予想されています。13日が新月なので、月明かりの心配はなく、一晩中好条件のもとで観察を楽しむことができます。同じ日にヨーロッパ(ロシア、グリーンランド、アイスランド、スペイン)で皆既日食が見られます。



8月13日午前3時の空 ステラシアターに一部加筆

日	月	火	水	木	金	土
30	31	1 にひゃくとおか 二百十日 ☆	2 ☆ 日の出 5:23 日の入 18:19	3 ☆	4 朝、西の空の <b>下弦</b> 月を見よう	5
6	7 はくろ 白露	8 ☆	9 ☆ 日の出 5:28 日の入 18:08	10	11 ☆ <b>新月</b>	12 朝、西の空の月を見よう
13	14	15 ☆	16 日の出 5:34 日の入 17:58	17 ☆	18 夕方、南の空の月を見よう <b>上弦</b>	19
20 ひがん 彼岸	21 敬老の日	22 国民の祝日	23 ☆☆ 秋分の日 <b>秋分</b> 日の出 5:39 日の入 17:47	24	25 <b>十五夜</b> (中秋の名月)	26 夜、満月を見よう
27 <b>満月</b> 夜、満月を見よう	28	29 ☆	30 日の出 5:45 日の入 17:37	1	2	3

※過去 10 年間の富山市の午後9時の晴天率  
 ☆☆: 60%以上 ☆: 40~50%

## ★ 夜空をながめてみよう ★

### ■ 月が金星に接近、金星が最大光度

9月14日、日の入り後の西の低空で金星と細い月が接近します。マイナス4.8等で輝く金星と、細くても存在感のある月の共演は目を楽しませてくれるでしょう。日の入り後、少し暗くなったらすぐに西の空を見てみましょう。金星は、地球よりも内側を公転している惑星です。

地球から見ると、太陽に照らされている面の見え方が異なるため、満ち欠けをして見えます。さらに、地球からの距離が大きく変化することで、金星の見かけの大きさも変化します。



©国立天文台



©国立天文台

## 今月のトピックス

### ■ 秋分と彼岸

秋分(9月23日ごろ)の日を中心に前後7日間を彼岸と呼んでいます。そのゆえんは、3月と9月の年に2回ある仏教行事に由来します。この時期は、お墓参りや仏壇の掃除をして、亡くなった方やご先祖様を供養します。おはぎ、又はぼた餅を食べるのも伝統的な風習として受け継がれています。

### ■ 中秋の名月(十五夜) …9月25日(金)

「中秋の名月」とは、旧暦の秋(7・8・9月)の真ん中の8月15日の月です。そのとき見える月を「十五夜」と呼び、お月見を楽しむのがならわしとなっています。旧暦の日付を新暦に直すとズレが生じるため、十五夜の日付は毎年異なります。また、今年の中秋は満月2日前のほんの少し欠けた月となります。



©国立天文台

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	1 <span>★★</span>	2 <span>★</span>	3 <span>★</span>
<small>※過去10年間の富山市の午後9時の晴天率 ★★: 60%以上   ★: 40~50%</small>						 朝、西の空の月を見よう
4	5 <span>★</span>	6	7	8 かんろ 寒露	9	10
朝、西の空の月を見よう						<small>日の出 5:54 日の入 17:22</small>
11 <span>★</span>	12 スポーツの日	13 <span>★★</span>	14	15 <span>★</span>	16	17 <span>★★</span>
 新月	 夕方、西の空の月を見よう					<small>日の出 6:00 日の入 17:13</small>
18	19	20 <span>★</span> 秋の土用の入り	21	22 オリオン座流星群	23 <span>★</span> 霜降 十三夜(後の月)	24
 夕方、南の空の月を見よう						<small>日の出 6:06 日の入 17:04</small>
25	26 <span>★★</span>	27 <span>★★</span>	28 <span>★</span>	29	30 <span>★</span>	31 <span>★★</span>
 夜、満月を見よう						<small>日の出 6:13 日の入 16:56</small>

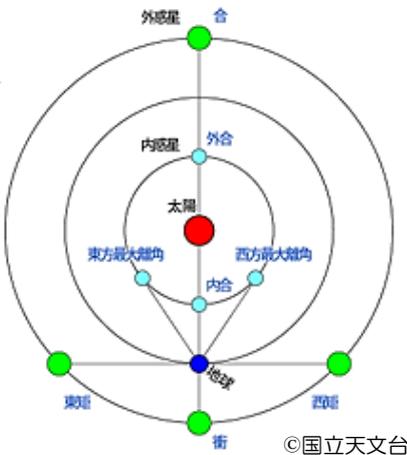
## コラム 惑星の位置を表す用語

### ■地球と惑星の位置と呼び方

「衝(しょう)」「内合(ないごう)」「東方最大離角(とうほうさいだりかく)」とは、どのような意味でしょうか。図のように地球の外側を公転する惑星を緑色(火星や木星、土星等)、地球の内側を公転する惑星を水色(水星と金星)で表すと、いくつかの特徴的な場所に名前が付いています。

例えば、木星が衝の位置に来た時は地球と最も近くなるので、地球からは見やすくなります。しかし、金星が内合の時には太陽の光によって見る事ができません。金星が最も見やすくなるのは、図の東方最大離角と西方最大離角の時なのです。金星は地球から見られる時間帯によって、宵の明星(日没後に見られる金星)と明けの明星(日の出前に見られる金星)と呼ばれています。

宇宙での地球と太陽、そして惑星の位置を想像しながら観察してみましょう。

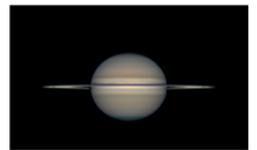


## 今月のトピックス

### ■見頃を迎えた土星に月が接近…10月4日(日)

10月4日に土星が衝(しょう)となり見頃を迎えます。

衝の頃の土星は、地球から見てちょうど太陽と反対側の位置にあります。このため土星は、日の入りの頃に東の空に昇り、真夜中には南の空で見え、日の出の頃に西の地平線へと沈んでいき、ほぼ一晩中観察できます。地球から見た土星の傾きによって、土星の環(わ)の開き具合が年々変化します。2025年にはほとんど真横から環を見る状態となり、非常に薄い(細い)環が見られました。2026年は土星の傾きがやや増し、環も少し開いて見えます。



©国立天文台

### ■十三夜のお月見…10月23日(金)

9月25日の中秋の名月とともにお月見を楽しむ機会がもう1つあります。十三夜の名月を「後の月」といいます。

栗名月(くりめいげつ)や豆名月(まめめいげつ)とも呼ばれ、お供えに使った農作物に由来しています。少し欠けた月の形には風情が感じられます。これは日本流の名月の楽しみ方です。月を身近な存在として生活してきた証ですね。



©国立天文台

日	月	火	水	木	金	土
1 ☆	2 ★★	3 ★★ 文化の日	4 ☆	5 ★★	6 ☆ おうし座南流星群	7 ☆ りっとう 立冬 日の出 6:20 日の入 16:49
朝、西の空の		下弦	月を見よう			
8 ☆	9 ☆	10	11 ☆	12 ☆	13 ☆ おうし座北流星群	14 ☆ 日の出 6:27 日の入 16:43
		新月	夕方、西の空の		三日月	月を見よう
15	16	17 ☆	18 しし座流星群	19	20	21 ☆ 日の出 6:35 日の入 16:39
		夕方、南の空の	上弦	月を見よう		
22 しょうせつ 小雪	23 勤労感謝の日	24	25	26	27	28 日の出 6:41 日の入 16:36
		夜、満月を見よう		満月		
29	30 ☆	1	2	3	4	5

※過去 10 年間の富山市の午後9時の晴天率  
★★: 60%以上 ☆: 40~50%

## 今月のトピックス1

- おうし座南流星群が極大・・・11月6日(金)
  - おうし座北流星群が極大・・・11月13日(金)
- 夜ふけの頭上高いおうし座に輻射点のある、おうし座流星群の南群が6日頃、北群が13日頃、それぞれピークになると予想されます。9日が新月ですので観察には好条件です。明るい火球めいたものは11月中出現するようです。



11月5日午前3時の空 ステラシアターに一部加筆

- しし座流星群が極大・・・11月18日(水)

2001年に日本で大流星雨の見られた、しし座流星群も近年はすっかり静かな出現に留まっています。今回は18日の午前9時頃にピークを迎えると予想されています。流星群が連続して見られるチャンスです。夜空をながめてみましょう！



11月18日午前4時頃の空 ステラシアターに一部加筆

## 今月のトピックス2

- 明け方東天のながめ・・・11月21日(土)

太陽系の最も内側をめぐる水星は、いつも太陽の近くにいて地球からは見えにくい惑星です。21日の明け方東天の空では、-4.9等の金星による強い明かりを目印にして水星を見つけましょう。

ただし、双眼鏡を使う場合は、太陽の光を見ないように注意して観察しましょう。

11月21日  
午前6時30分の空



ステラシアターに一部加筆

- 天王星が衝(しょう)・・・11月26日(木)

おうし座を移動中の天王星が、11月26日に衝(太陽、地球、天王星が一直線)となり、観望の絶好期となる予想です。とはいえ、明るさは-5.6等ですから、みつめるには双眼鏡があるとよいでしょう。天王星は太陽系にある惑星(水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星:7番目)です。1781年にW.ハーシェル(ドイツ)によって発見されました。5年後の2031年には、発見から250年をむかえます。

日	月	火	水	木	金	土
29	30	1 日の出 6:44 日の入 16:35	2 ☆☆	3	4	5
6	7 たいせつ大雪	8 日の出 6:50 日の入 16:35	9 新月	10 夕方、西の空の三日月	11 月を見よう	12
13	14 ふたご座流星群	15 日の出 6:56 日の入 16:36	16 夕方、南の空の上弦	17 月を見よう	18	19
20 ☆	21	22 とうじ冬至 日の出 7:00 日の入 16:39	23 こぐま座流星群	24 夜、満月を満月	25 見よう	26
27	28	29 日の出 7:03 日の入 16:43	30	31 おおみそか大晦日	1 元日	2
				朝、西の空の下弦	月を見よう	

※過去10年間の富山市の午後9時の晴天率  
☆☆: 60%以上 ☆: 40~50%

## ★ 夜空をながめてみよう ★

### ■ 冬の三大角と冬のダイヤモンドを見つけよう

冬は気温が下がり乾燥しているので空がクリアに見えます。そのため1年中で最も天体観測に適した季節といえます。

冬の夜空を代表する「冬の三大角」は有名ですが、冬の星空には「ダイヤモンド」も輝いているのを知っていますか。東の空に輝くカペラ、アルデバラン、リゲル、シリウス、プロキオン、ボルックスを結んでできる大きな六角形を見つけましょう。



12月20日午後8時の空

ステラシアターに一部加筆

## 今月のトピックス

### ■ ふたご座流星群が極大…12月14日(月)

ふたご座流星群は、活発な出現を見せてくれる流星群のひとつとしておなじみです。この冬は12月14日午後11時頃が極大になると予想されています。



12月14日午後11時の空 ステラシアターに一部加筆

### ■ こぐま座流星群が極大…12月23日(水)

北極星のあるこぐま座β星付近に輻射点をもつこぐま座流星群が、12月23日の午前7時頃にピークになると予想されています。

12月22日午後8時の空  
ステラシアターに一部加筆



日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	31	1 元日	2
<small>※過去10年間の富山市の午後9時の晴天率 ☆☆: 60%以上 ☆: 40~50%</small>			<small>日の出 7:03 日の入 16:44</small>			
3	4 しぶんぎ座流星群	5 しょうかん 小寒 ☆	6 <small>日の出 7:04 日の入 16:50</small>	7	8 新月	9 <small>夕方、西の空の月を見よう</small>
10 <small>夕方、西の空の 三日月</small>	11 成人の日 ☆ <small>月を見よう</small>	12	13 <small>日の出 7:03 日の入 16:56</small>	14	15 ☆	16 <small>夕方、南の空の月を見よう</small>
17 冬の土用の入り <small>夕方、南の空の月を見よう</small>	18	19	20 だいかん 大寒 <small>日の出 7:01 日の入 17:03</small>	21 ☆☆	22 <small>夜、満月を 満月</small>	23 <small>見よう</small>
24	25	26	27 <small>日の出 6:57 日の入 17:11</small>	28	29 <small>朝、西の空の 下弦</small>	30 <small>月を見よう</small>
31	1	2	3	4	5	6

## コラム 流星が流れるのは

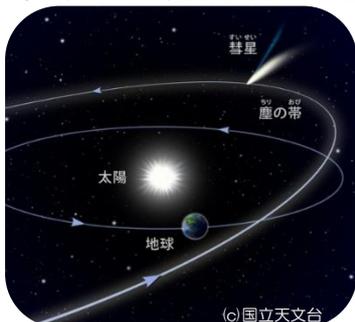
### ■彗星

彗星は、主成分が水(氷)であり、その表面は太陽の熱で崩壊し、図のような白い塵(ちり)を放出しています。



### ■流星

彗星が通った後に、塵の帯ができます。地球が太陽の周りを回る途中、下の図のように彗星が通った後のルート(軌道)に交差している場合、チリの粒がまとめて地球の大気に飛び込んできます。これが流星の正体です。地球が彗星の軌道を横切る日時は毎年ほぼ決まっているので、特定の時期に特定の流星群が出現するわけです。流星は星空のある一点から放射状に飛び出すように見えます。流星が飛び出す中心となる点を「放射点」と呼び、一般には、放射点のある星座の名前をとって「〇〇座流星群」と呼ばれています。



## 今月のトピックス

### ■しぶんぎ座流星群極大…1月4日(月)

しぶんぎ座流星群は、毎年お正月にピークを迎える三大流星群の一つです。しぶんぎ座は、現在使われている全天88星座に分類整理される以前の壁面四分儀座という星座に由来しています。今年は、月明かりの影響が少なく観察できます。



1月4日午前6時の空 ステラシアターに一部加筆

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3 せつぶん 節分	4 りっしゅん 立春	5 ★	6
7 金環日食 (日本では見られない)	8 新月	9	10	11 ★ 建国記念の日	12 ★	13
14 ★	15 ★	16	17	18 ★	19 うすい 雨水	20
21	22	23 天皇誕生日	24 ★	25	26	27 ★
28 ★	1	2	3	4	5	6

夕方、西の空の 三日月 月を見よう

夕方、南の空の 上弦 月を見よう

夜、満月を見よう

朝、西の空の 下弦 月を見よう

夕方、南の空の月を見よう

夜、満月を見よう

朝、西の空の月を見よう

日の出 6:50  
日の入 17:20

日の出 6:43  
日の入 17:28

日の出 6:35  
日の入 17:35

日の出 6:27  
日の入 17:42

※過去10年間の富山市の午後9時の晴天率  
 ★★: 60%以上    ★: 40~50%

## コラム 日食

### ■日食について

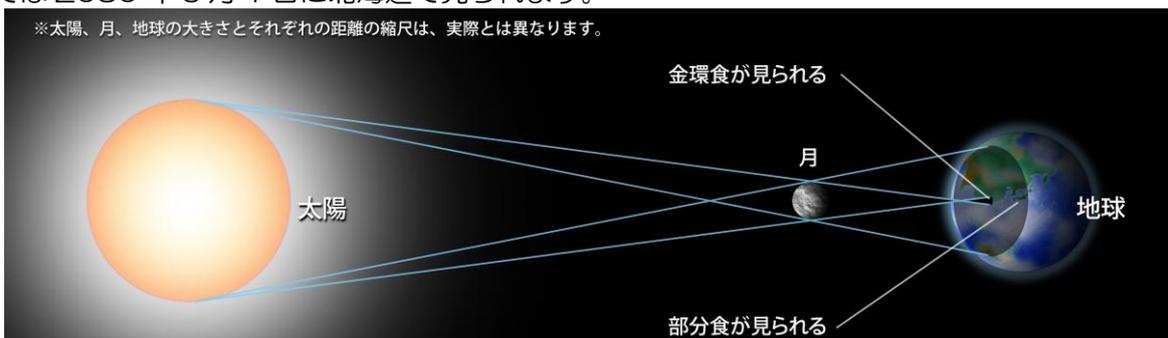
日食とは、月が太陽の前を横切るために、月によって太陽の一部（または全部）が隠される現象です。太陽の隠され方によって、3種類に分類されます。太陽の一部が隠される「部分食」は、広い範囲で起こります。

太陽が全部隠される「皆既食」は、非常に狭い範囲でしか起こりません。金環食は、太陽のほうが月より大きく見えるため、月のまわりから太陽がはみ出して見えます。日食（や月食）が起こる理由は、太陽・月・地球がぴったりと一直線に並びことにあります。しかし、月の軌道がわずかに傾いているため、これが毎月のように起こるわけではなく、特定のタイミングでのみ観察できる現象なのです。

### ■金環日食

2月7日（日）は南米チリやアルゼンチン、ガーナなどで金環日食が見られます。今回日本では見られませんが、直近では2030年6月1日に北海道で見られます。

※太陽、月、地球の大きさとそれぞれの距離の縮尺は、実際とは異なります。



©国立天文台



©国立天文台

日	月	火	水	木	金	土
28	1	2 ★★	3 ★★	4 ★	5 ★	6 けいちつ 啓蟄 日の出 6:16 日の入 17:50
7 ★	8	9 新月	10 三日月	11	12 ★★	13 日の出 6:06 日の入 17:56
14 ★★	15	16 ★	17 ★	18 ひが 彼岸	19	20 日の出 5:56 日の入 18:02
21 しゅんぶん 春分の日 春分	22 振替休日	23 ★	24 ★	25 ★	26 ★	27 ★ 日の出 5:45 日の入 18:09
28 ★	29 ★	30 ★	31	1	2	3

※過去10年間の富山市の午後9時の晴天率  
★★: 60%以上 ★: 40~50%

## ★ 夜空をながめてみよう ★

### ■春の大三角を見つけよう

3月21日が春分なので、これまで全盛を誇るように輝いていた冬の星座たちが、夕暮れの早い時刻のうち西空へ傾いていきます。夕方の南の空には、ふたご座でひときわ明るく木星が輝き、にぎやかな早春の夕暮れどきの光景となります。東の空にも姿を見せ始めるのは春の星座です。少し遅い時間になりますが、うしかい座のアルクトゥルスを目印に、しし座、おとめ座、うしかい座でつくる春の大三角形が見つかることでしょう。



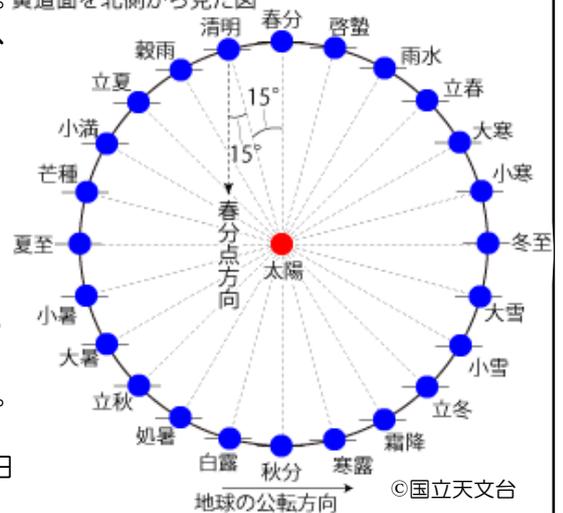
3月25日午後9時の空 ステラシアターに一部加筆

## コラム 二十四節気

### ■季節を表す言葉 二十四節気 (にじゅうしせっき)

二十四節気とは、春分を起点に1年の太陽の動きを15度ごとに24等分して決められているもので、季節を表すための言葉です。図は地球の公転を正円で表していますが、実際には地球の公転はだ円なので、15度ずつ等分しても、24節気の間隔は等しいわけではありません。黄道面を北側から見た図

ちなみに、春分のところを春分点とよび、ここから1年後の春分点までの移動にかかる日数は、365日と6時間弱ほどです。一般的に1年は365日と言います



が、実際には365日では、4分の1日程度足りないのので4年に一度「閏年(うるうどし)」というものを入れて1日増やすことで調整しています。前回2024年が閏年だったので、次回は2028年となります。